

授業改善プランの検証 現1年

	成果	課題	改善策
国語	<p>◎「ことばあつめ」や「ことばさがし」など、多くの単元で語彙を増やす機会があった。ゲーム感覚で身近な言葉を見つけたり、分からない意味を確認したりしたことで語彙力が身に付いた。</p> <p>◎物語の音読では、すらすら読める児童が増え、気持ちを込めて読めるようになってきた。どんな場面なのか、どんな気持ちで読んだらいいのかを考え、それらを表現するためにどうやって工夫して音読したらよいかを考えることができた。</p> <p>◎「とめ」「はね」「はらい」に注意して丁寧に書くように繰り返し指導することで、整った字形で文字を書く力が伸びつつある。</p>	<p>▼書きたいことを自分の力で文章にする力は身に付いてきたが、書く経験がまだ少ないので、助詞や句読点の打ち方、かぎの使い方、促音・拗音の間違が見られる。</p> <p>▼話すこと・聞くことの単元の活動が十分にできていない。話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを、落とさないように集中して聞ける児童が少ない。</p>	<p>★「かくってたのしいね」を教科書と併用しながら取り入れ、正しい文章の書き方を習得していく。</p> <p>★発表や話し合うときの話し方、聞き方、話型を指導していく。可能な範囲で話し合い活動の機会を増やしていく。</p>
算数	<p>◎学習内容やポイントを掲示物として残してきたことで、既習事項を活用して新しい課題を解こうとする意識が身に付いた。</p> <p>◎10までのたし算やひき算に繰り返し取り組んできたことで、基本的な計算力が身に付いた。</p>	<p>▼問題の意味を正しく読み取ることができず、問いに対する正しい答えを導き出せていない児童がいる。</p> <p>▼答えとなる数を求めることはできるが、考え方を説明できない児童がいる。</p>	<p>★「問題から分かること」と「聞かれていること」にアンダーラインを引く、問題を読みながら具体物の操作を行う等して、演算決定をやすくする。</p> <p>★「わかる」「10をつくる」「10といくつ」等、問題を解くためのキーワードを掲示物やヒントカードとして残し、活用できるようにする。</p>
生活	<p>◎夏の自然との様子の違いや、秋の特徴に気付くとともに、季節によって生活の様子が変わること気付くことができた。</p> <p>◎アサガオや秋植えの植物の栽培を行うことで、</p>	<p>▼自然とのふれあいを深める校内環境の自然が限られている。校外学習等で動植物との触れ合いを経験させたい。</p> <p>▼人とのかかわりが学年中心になりがちなので、</p>	<p>★校外学習での体験活動を通して、動植物と触れ合う活動を充実させるとともに、社会性を身に付けられる活動にしていく。</p> <p>★「がっこうたんけん」「とくもちランド」「昔遊び」</p>

	植物を大切にすることが育った。また、観察を続けることで、その変化や成長の様子に気付くことができた。	異学年交流やゲストティーチャーとの交流を意図的に取り入れていく。	などにおいて、他学年や地域の方との交流の機会を意図的に設定する。
音楽	◎児童同士が互いに歌声を聞き合う活動を取り入れたことで、自分の歌声に気を付けながら曲の様子に合った歌い方ができるようになった。 ◎鍵盤ハーモニカの指使いやタンギング、楽器の演奏の仕方を繰り返し指導したことで、児童が正しく演奏しようという意識付けができた。	▼一定のリズムを保てず速く歌ったり演奏したりする児童がいた。 ▼休符を意識せずに歌ったり演奏したりする児童がいた。 ▼鑑賞において、場面や様子を想像したことを表現したり発表したりするのが苦手な児童がいた。	★リズムや休符を意識して歌ったり演奏したりできるように、リズム唱や体や楽器によるリズム打ちを一年通して十分に行い、リズムに対する感覚を身に付けさせる。 ★聴く観点を明確にして、興味・関心を高め集中して音楽を聴けるようにさせる。 ★体を動かして音楽を聴く活動を取り入れ、楽曲の気分の変化を感じ取りやすくさせる。
図工	◎表現活動に対する意欲が高く、制作への興味・関心をもっている児童が多数みられる。 ◎基礎的・基本的事項、技法を教えることで、制作への展開が見られ、完成度の高まりも見られた。	▼発想や構想を豊かにし、児童が思いを広げられるようにする指導が必要である。 ▼題材の得意、不得意によって取り組む姿勢が異なる児童が見られる。	★グループでの活動を取り入れ、好きな色を選んだり面白い形を思いついたりしている友達の活動に気付くことができるような場づくりをする。 ★目標達成への期待をもたせるために、作品の見本や作業の実演を多く取り入れる。
体育	◎様々な場を用意し、いろいろな動きが経験できるようにしたため、児童が様々な動きの運動遊びに取り組むことができた。また、意欲的に取り組む姿が見られた。 ◎ゲームや遊びを通して、友だちと仲よく運動している子を称賛したり、作戦タイムを取り入れチームプレイを意識させたりして、協力する態度を十分育成できた。	▼集団行動についての意識は個人差がある。 ▼運動の経験が少ない児童が多く、技能面に差がある。	★運動についての関心・意欲・態度を向上させるために、運動の楽しさ(特性)を味わわせるような授業を展開する。 ★運動技能の習得を図るために、引き続き様々な場を用意し、いろいろな動きが経験できるようにする。 ★運動する場や動きに名前をつけ、遊びの要素を取り入れて楽しみながら運動に取り組めるようにする。